

夏休みという長期休みが終り順調に学校での活動が始まっています。この休み中に子どもたちから届いたたよりには、旅行に行ったことや自分の好きなことに取り組んでいることなどがたくさん書かれていました。いただいたたよりに返事を書くことがこの夏の一つの楽しみでもありました。野球やサッカーなどのスポーツを頑張っていた子どもも多かったようですが、テレビでは、毎日のように多くの熱中症患者が病院に運ばれたり、海や山で事故にあう人がいたりすることが報道されていたので、いつもどきどきしながらそういうニュースを聞いていました。桐光学園小学校では、休み明けに欠席する児童がとても少なく、そのことから、保護者の皆さんがお子さんの安全と体調管理に気を配っていただいていたことが改めて分かりました。

【農園活動について】

原発の事故以来首都圏においても放射線の影響を心配する声が聞かれます。桐光学園小学校の保護者の皆さんの中にも心配されていらっしゃる方がおられるでしょう。ただ、日常の生活ができないレベルではないことから、心配はされていらしても、それによって遠くに住まいを変えられる方も、お子さんを登校させないという判断をされる方もいらっしゃるというのが現状です。

学校としても、決して無関心でいられることではありませんが、これまでと同様に公的機関からの情報を確認しながら対応していくつもりです。農園活動については、春から夏にかけて各学年での取り組みを例年通りに行いました。秋の農園活動は年間計画においては、3年生の大根の種まきから収穫までの作業が予定されていますが、他の学年の総合の活動は農園からコンピュータ室などでの活動が中心となります。農園で子どもたちがある程度の作業をすることについては、計画通りに進める予定です。ただし、現在問題になっている放射性物質が蓄積しやすいとされる枯れ葉が溜まっている場所などもあることから、農園のまわりの雑木林の中の自由遊びや落ち葉を利用した腐葉土作りなどを今年度は行わないようにします。また、市販されている腐葉土などもその安全が確認されるまでは使用は控えることにします。

【気になる大人の発言】

最近テレビなどで聞かれる、「子どもみたいなことをしてしまった」というような発言が気になっています。こういう声は、大人が事実を隠蔽していて、あとでそれが判明したときの言い訳に多く使われています。子どもは嘘をつくことを当然のような言い方をする人たち、そういう人たちも含めて大人は子どもに嘘をついてはいけませんと教えます。テレビでそういう発言をした政治家がいましたが、そんなときにテレビに向かって「子どもをばかにしてはいけない」と口から出てしまいました。この矛盾には子どもだって気づいているのではないのでしょうか。そのようは大人はごく一部でしょうが、テレビで流される発言はとても影響が大きいでしょうし、そんな大人の発言をできれば子どもたちには聞かせたくないものです。

同時に私たちも日々子どもたちと学校で生活していて、言葉遣いの大切さをもっと意識しなければなりません。教師が丁寧な言葉を遣えば子どももそれに応えてくれます。子どもに言葉の大切さを説く前に、私たちが発する言葉が子どもたちに受け入れられるものでなければならぬことを忘れてはいけません。感情的になって、大きな声を出してしまうのは子どもを萎縮させることはあっても、子どもに自分の言動を振り返らせることにはつながりません。大きな声を出したり、子どもを否定的に見たりすることしかできないとき、私たちは子どもの指導において敗北を宣言してしまうことに等しいでしょう。

まずは大人が、優しさと思いやりの心がこもった言葉遣いを心がけましょう。

【保護者の役割】

日曜日の新聞(朝日)に、・・・子ども同士の小さないざこざに親が口を出すべきか見守るべきかで悩んだ経験はありませんか。親がよかれと思ってしたことが、子どもの成長を妨げているとしたらやりきれません。・・・とありました。また、その記事の中に、保護者の役割は、「3歳までは気持ちの代弁者、4歳児はあったことを聞き出す司会者、5歳児は思いの吐露の交通整理役」とある幼稚園の先生のお考えが紹介されていました。ここにある「代弁者・司会者・交通整理役」というわけ方については納得させられるところがあります。子どもの成長を見守りながら、教師や保護者がどういう役割を果たすのがよいかを考えていきたいものです。

子どもの成長を妨げるものの一つに、この役割の認識を間違えてしまうことがあります。聞き役に徹するべきときに、自分の子どもが言うことを全て正しいと思ひ込み、代弁者となって他の保護者や教員にいろいろと話してしまうこともあります。子どもが自分で乗り越えようとしてもそれを大人同士の問題としてしまい、かえって解決を遅らせてしまうこと、教師が子ども間の気持ちの調整だけでなく、保護者間のトラブルの解決のために、時間を費やさなければならないという事態になってしまうこともしばしばです。子ども間に起きる様々な問題が、比較的早い段階で解決できることもあれば、それぞれの子どもの成長を待ちながら時間をかけて解決していかなければならないこともあります。保護者、教師の役割は、問題を大きくすることではなく、子ども自身が自分で考え、問題解決に向けてどう取り組むことが大切かを考えさせることです。